

## クララについて

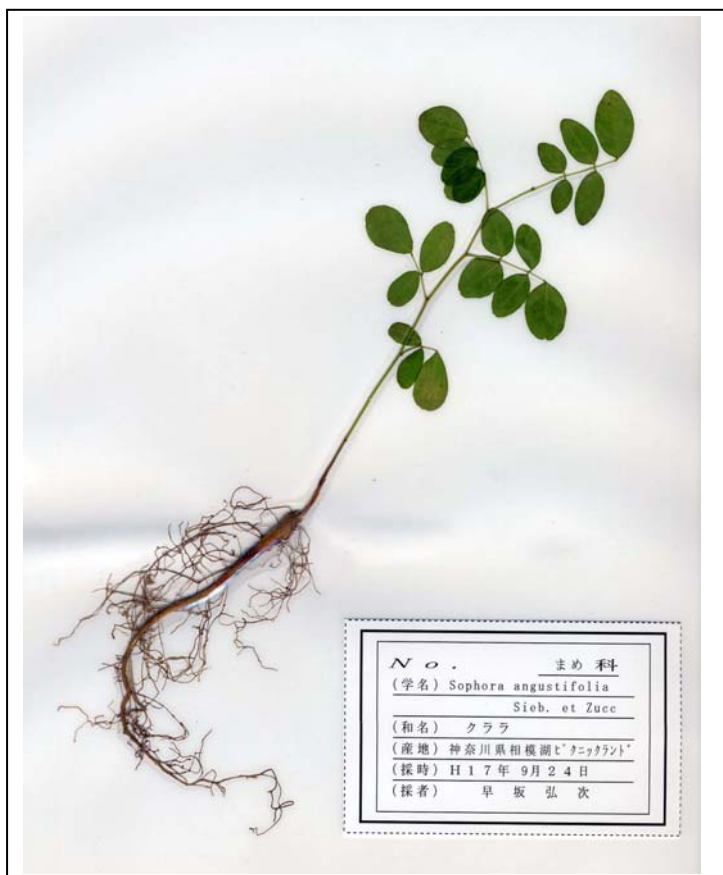
作成：2005.10.15 早坂弘次



写真提供：梅村三千夫氏

オオルリシジミの食草であるマメ科のクララは「各地に見られる多年性草本である」と牧野植物図鑑には記載されている。ところが実際オオルリシジミの累代飼育に取り掛かるとその餌のクララの確保に翻弄される。その生育地は現在限られているからだ。そこで筆者並びに累代飼育に挑戦されている方々は自宅にクララを栽培する事になるのだ。

そこで野外の生育した株を移植と言う事になるが、大変なのはその株の根がものすごく深く掘るのが大変な事です。次に手を打つ事は時間掛かりますが実生でクララを育てる事である。今回その実生のクララについて報告いたします。



昨年9月に種を蒔いたクララの苗を相模ピクニックランドの梅村社長に戴いた。

芽吹いた苗を本年、9月24日プラケースより掘り出して庭に移植しました。オオルリの餌として使える、花が咲くのは2~3年後でしょう。

掘り出して判った事は既に太い直根が形成されている事です。毛根も入れたその全体の長さは地上の茎全体の長さに匹敵するくらいである。一年生の苗にしてこの形態であるから生育したクララは掘り出すのは容易でない事は納得が行く事である。

よく見ると茎の付け根、つまり直根の先端には既に来春芽吹くであろう新芽が形成されているではないか。ここまでしたたかなクララが回りに他の植物が繁茂すると衰退し絶滅する

と言う事が信じられないくらいである。以上

追記

後日梅村社長よりクララの実生栽培についてのコメントを戴いた内容は以下の通りである。

種を蒔く時期について

昨年実が黒くなったのを集めて一晩水に浸して(柴谷さんのお勧め)から、9月末頃プラスチック製のプランターに鹿沼土+赤玉土を混ぜたものに蒔いた。

結果は一部の実から年内に発芽してしまった。従って、この時期では早すぎると思われる。

自然の状態では黒くなった実がボロボロになって自然にこぼれるので、種を蒔くなら11月頃が良いのではないかと考えている。

もう一つの植木鉢では2年越しに発芽するものも結構見受けられる。 以上